2018 年 6 月クルディスタン報告書

Reporta Kurdistanê Hezîranê 2018’ê

日本クルド友好協会

南クルディスタン（イラク北部クルディスタン地域）

Başurê Kurdistanê

イラク議会選挙の余波

◆選挙を巡る陰謀

10 日、投票用紙が保管されているバグダッドの倉庫で不審火が発生した[10 日、ロイター]。アバディは、不審火を「イラクに対する陰謀」だと発言した[10 日、ルダウ]。丁度バグダッドで、クルディスタン地域含むイラク諸党派が会合を行い、今後の情勢に対する認識に合意の雰囲気が醸成された矢先の出来事であった[9 日、ルダウ]。12 日、下手人と思しき 4 人が逮捕された[12 日、ルダウ]。その内 3 人は警備の警官であり、1 人は選挙システムのエンジニアであった。何者かが逮捕されたような投票用紙にアクセスできる人間に工作をさせたと見られる。アバディは背後で糸を引く者の逮捕を主張した[20 日、ルダウ]。サドルは、この事件後イランから支援を受けるハディ・アメリとの融和的姿勢を鮮明にした[24 日、ルダウ]。サドルは、その家名が示すように有力なシーア聖職者である。彼はそれ以前にイラクの分裂を憂慮する愛国者である。シーア優遇ではなくイラク全体のための政治をやると困る勢力が、選挙に介入した可能性は高い。

イラク独立高等選挙委員会ヘウレル(エルビル)事務所のアリ・カディルは、クルディスタン地域から集められた投票用紙は火災が発生した倉庫とは別の場所に保管されていたと発言した[11 日、クルディスタン 24]。クルディスタン地域の票は、この問題の背後にいる人々にとって操作対象とは見られていないことを示している。

21 日、イラク最高裁は、人手による票の数え直しという国民議会の案を違憲ではないと追認した[21 日、アルジャジーラ]。これで選挙結果を巡る騒動に一定の決着が着いた形にはなった。

◆イラクの安定化は実現するか

8 日、サドルはイラク全土で武装解除を呼びかけた[9 日、中東監視団]。サドルが狙っているのは、スンニ地域から武器を奪い二度と IS のような勢力の台頭を許さないことと、軍閥化しているシーア民兵の力を削ぎ中央政府の権力を強化することにある。「武装解除」が進められるとしたら、ペシュメルガの処遇が今後注目されるところだ。ペシュメルガは、イラク中央政府からすると民兵でありクルディスタン地域からすると治安部隊なのである。アバディが、クルディスタン地域の独立を問う住民投票後の騒動後、同地域との関係を改善する中で、空港や国境の管理権を奪おうとしたようにペシュメルガの兵力を弱めようとすることは想定されうる事態だ。

サドルはシーアの聖地ナジャフでイランが支援するハディ・アメリと、連立を組む意向であることを明らかにした[12 日、ロイター]。クルディスタン地域の 2 大勢力クルディスタン民主党(KDP[1])、クルディスタン愛国者連盟(PUK[2])は、この連帯をイラクの政治的危機を終わらせるための「前進」と歓迎した[13 日、バスニュース]。

◆キルクークの危機

大油田キルクークでは、占領するイラン支援下民兵とイラク治安部隊が治安維持への無能力さに乗じて、IS が活発な活動をしている。治安の崩壊は少数民族に大きな不利益をもたらしている。クルディスタン地域政府は、イラク中央政府に比べれば少数派保護に力を入れていた。11 日、IS はキルクーク近郊の村で 5 人を誘拐した[11 日、ルダウ]。その中にはクルド系少数民族カカイの有力者も含まれていた。この事件に関連したクルド系メディアの取材で、現地のカカイ住民はアラブ系住民に囲まれる恐怖について明かした[25 日、ルダウ]。野党勢力「変化運動」キルクーク地区長は、キルクークの治安状況は危機的状況であり、ペシュメルガの再来以外に治安回復の方法はないと発言した[24 日、バスニュース]。29 日には、キルクーク西部ハウィジャで爆発があり 2 人が死亡した[29 日、バスニュース]。

1 クルディスタン民主党の英語名 Kurdistan Democratic Party の略。クルド語では、Partîya(党) Demokrata(民主) Kurdistanê(クルディスタン)の略称 PDK が使われる。
2 クルディスタン愛国者連盟の英語名 Patriotic Union of Kurdistan の略称。クルド語では、Yekîtiya(統一) Niştmanîya(民族主義者) Kurdistan(クルディスタン)を略して YNK が使われる。

トルコの敵対行為に苦しむイラク

◆トルコによるチグリス川堰き止めの懸念

トルコがチグリス川上流で新たなダム建設に着手したことがイラクに危機感をもたらしている[3 日、「中東」紙]。トルコはかつてクルディスタン労働者党(PKK[3])を匿うシリアのハーフィズ・アサド大統領に対し、ユーフラテス川上流を堰き止めると脅したことがある。それが最終的に PKK 指導者オジャランの同国追放、そしてナイロビでの身柄拘束につながった。

◆選挙のためにイラクを空爆するトルコ

11 日、トルコ大統領エルドアンはカンディルとシェンガルから PKK を排除するため、軍事行動を開始したと発表した[11 日、「自由」紙]。クルディスタン取材で名高いジャーナリストのウラジミール氏は、エルドアンによるイラクでの軍事行動開始宣言を「選挙対策」だと分析した[11 日、スプートニククルド]。この作戦以前よりトルコは、イラク領内で国際法違反の軍事行動を続け、イラク政府の許可なく基地を置いてきた。トルコは PKK が潜んでいるという理由で、見境なく山地を空爆している。そのため多くの山地住民が住居や畑を破壊され生活の基盤を失っている。トルコ軍が PKK の掃討作戦を続けるトルコ領ハッキャリのイラク側地域の農民男性はトルコの爆撃に怒りの声を上げた[3 日、ユーフラテスニュース]

◆エルドアンの侵略を支持するテュルクメン戦線

イラク・テュルクメン戦線の議員エルシャト・サリフは、トルコによる国際法違反の軍事行動を支持するツイートをした[12 日、@Ersatsalihi]。テュルクメン戦線は、イラクのテュルクメン人の利益一般ではなくトルコ、特にエルドアンと AKP のために動いている。PKK が国境侵犯を繰り返すトルコ軍と戦っているのに対し、彼らはモスル、キルクークの油田を狙うエルドアンのため外患誘致活動をしている。

◆トルコのクルド人との連帯

トルコのクルド系政党人民民主党(HDP[4])は、総選挙を前にクルディスタン地域へ使者を送りクルド人同士の連帯を訴えた[10 日、ルダウ]。クルディスタン地域前大統領マスード・バルザニは、トルコ総選挙投票日に際して、HDP へメッセージを送った[24 日、24 時]。

---

3 クルディスタン労働者党のクルド語、Partîya(党) Karkerên(労働者たちの) Kurdistanê(クルディスタンの)の略。日本のメディアで散見される「クルド労働者党」の呼称は誤り。
4 トルコ語の党名、Halkların(諸人民または国民の) Demokratik(民主主義) Partisi(党)の略。Halk はアラビア語で人民を意味する halq に由来する。

ロジャバ（西クルディスタン、北シリア）

Rojava Kurdistaê

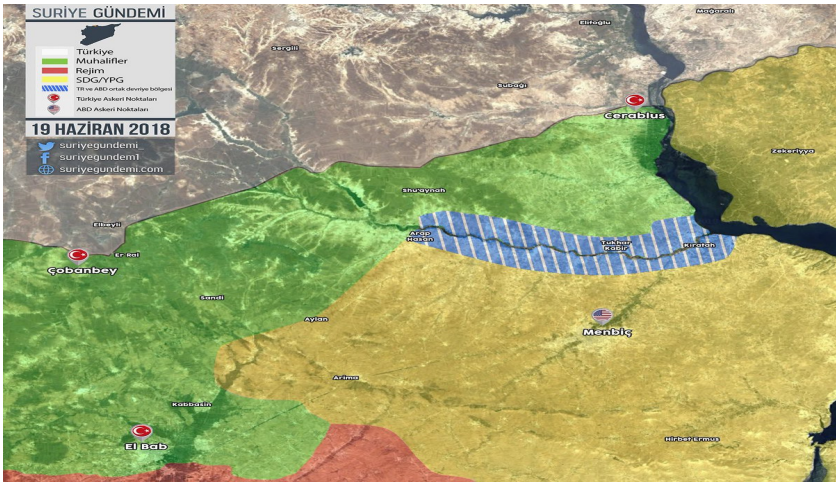
マンビジュの運命

4 日、トルコ外相チャブシオールとアメリカ国務省長官ポンペオは、両国に横たわるシリアのクルド人問題について会談し大筋で合意が成立したと共同声明が出された[4 日、ロイター]。詳しい内容は明らかにされなかった。チャブシオールは、会談について「大成功」とし、クルド人部隊の撤退とアメリカ、トルコ領軍部隊が共同でマンビジュの警備にあたると合意内容を明らかにした[5 日、アナトリア通信]。会談と同じ日、シリア反体制派連合「国民解放戦線」の使節団がマンビジュを訪問し、マンビジュ軍事委員会指導部と会い現地情勢について話を聞いた[4 日、マンビジュ軍事委員会]。国民解放戦線とは、先月結成が発表されたシリア北部で活動する反体制派勢力の新たな連合である。実質トルコの傭兵である「シャーム軍団」、イドリブ自由軍、第一沿岸師団、勝利軍といった勢力を含む 11 の勢力が参加する[3 日、オリエントニュース]。参加勢力の顔ぶれからすると同連合の基本姿勢は親トルコ、反クルドと見られる。トルコ進駐後に進出しようと下見に来たのか、もはやアサド政権打倒が不可能な現状将来を見据えて北シリア連邦の傘下入りを模索しに来たのか定かではない。

人民防衛隊（YPG[5]）は、トルコの機先を制し軍事顧問をマンビジュから引き揚げる意向を明らかにした[5 日、ロイター]。9 日、トルコ国防相ヌレッティンは、アメリカ、トルコ両軍がマンビジュで共同警備にあたると発言した[9 日、「自由」紙]。18 日、トルコ軍がマンビジュに進駐するという情報が流れた。マンビジュ軍事委員会は動画を上げてこの疑惑を否定した[18 日、マンビジュ]。動画では何もない原野において、トルコ軍の車両らしき軍用車がマンビジュを威嚇するように走行していた。

同日、トルコメディアは一斉にトルコ軍と傭兵勢力によるマンビジュ郊外での警備活動を報じた[18 日、「自由」紙]。エルドアンは選挙運動における演説で早速マンビジュ進駐を成果としてアピールした[同上]。実際の活動地域はマンビジュ郊外というより、トルコ占領地域と北シリア連邦統治区域の境界線上であったとされる（下図）。

5 人民防衛隊のクルド語、Yekîneyên(部隊) Parastina(防衛) Gel(人民)の略。



斜線部分がトルコ軍警備区域　出展：今日のシリア

トルコ国営通信社は、アメリカ国防省がトルコ軍と同時に警備活動を行ったことを認めたと報じた[18 日、アナトリア通信]。22 日、マンビジュ軍事委員会は、有志連合はマンビジュへの駐留を続けトルコ軍と傭兵勢力が進駐することはないと声明をだした[22 日、マンビジュ軍事委員会]。

当然のことながらマンビジュ市民はトルコの進駐を歓迎していない。エルドアンはアラブ系住民の多い同市をクルド人支配から解放すると息巻いているが、マンビジュ市民はアフリンの「解放」の顛末を知っているためトルコに内通する者以外で歓迎する者は稀だ。クルド系メディアは、マンビジュの女性の不安な声を伝えた[13 日、ハワルニュース]。マンビジュ市民は、トルコはアメリカ軍と共同で警備活動を実施していると嘯いているが、実際はアフリンと同じ侵略を戦わずして実施ようとしていると見ている。トルコ国営通信社は、マンビジュ近郊で最大のアラブ系部族がトルコの進駐を支持したと歓迎ムードを演出した[19 日、アナトリア通信]。一方でその翌日、マンビジュで多くの市民がトルコの進駐に反対するデモ行進を行った[20 日、ハワルニュース]。

◆北シリアに蔓延るトルコの工作員

13 日、クルド系メディアは当局に逮捕されたテロリスト数名の「自白」動画を公開した[13 日、ハワルニュース]。彼らはトルコの諜報機関に雇われ PYD の統治をかく乱するために、破壊活動を行ってきたと告白した。「休眠細胞」達はトルコ軍の行動に呼応して工作活動をし、ジャラブルス、バーブ、アフリンの陥落に大きく貢献したと自白した。

より強く吹き続ける「ジャジーラの嵐」

IS からのシリア東部解放作戦「ジャジーラの嵐」は、シリア民主軍（SDF[6]）は破竹の勢いで IS 占領地を奪還している。参加するアッシリア人部隊は、同作戦でエジーディが救出されたとツイートした[10 日、@SyriacMFS]。16 日、SDF は有志連合部隊と共にハサカ地域最後の IS の拠点ダシシャを奪還した[16 日、シリア人権監視団]。

イラク治安部隊も SDF の動きと合わせて国境地帯の IS 掃討を行っており、両者は共闘関係にある。シリア―イラク国境がアメリカ軍影響下に入ることをイランは容認できない。イラク軍のナジム・ジャブーリ准将は、汎アラブ新聞に対しイラク―シリア国境地帯にアメリカ軍基地はないと発言した[3 日、アラブソース]。イランはバグダッドから地中海またダマスカスまで巨大な親イラン回廊を築こうとしている。アメリカ軍が SDF を支援しながらそれに楔を打つことに我慢がならない。IS はその両者の対立関係を利用してこの地に居座ってきた。双方とも敵に奪取されるくらいならある意味中立的なテロ組織の支配を許そうという妥協である。

アメリカ軍の空爆に伴う被害について政治的な理由から問題視されている。反体制派勢力は反クルドなゆえ、それを支援するアメリカ軍を非難する。シリア人権監視団は、有志連合による「虐殺」を告発した[12 日、シリア人権監視団]。イラン寄り勢力もアメリカ軍の影響力排除のためまた非難する。イラク国境側の住民はシーア民兵人民動員軍司令部にアメリカ軍の空爆による被害を訴えたと報じられた[18 日、シュメールニュース]。

◆アサド政権とクルド人勢力の協力なるか

シリア民主評議会共同委員長イルハム・アフマドは、クルド系メディアの取材に対しアサド政権との交渉に臨む準備があると発言した[11 日、ユーフラテスニュース]。アサドは、先月末クルド人勢力との交渉の余地について発言している。クルド人勢力が国連主導、ロシア主導を問わずシリア和平の枠組みから排除されていることと、もはやアサド政権が揺るぎない優位を確立したことがある。シリア反体制派勢力はこれまでアサド政権の退陣という現状を無視した要求を頑なにしてきた。またアサド政権の次に大きな勢力である北シリア連邦諸派の参加を拒んできた。現状を踏まえた交渉ができるのはアサド政権と北シリア連邦政府だけというのが現実である。

シリア南部の反体制派拠点ダルアーでは政権側の攻勢が開始された。かつてアメリカやヨルダンが支援していた勢力によれば、アメリカはもはや政権の攻勢に対し介入する気はないとのことである[23 日、

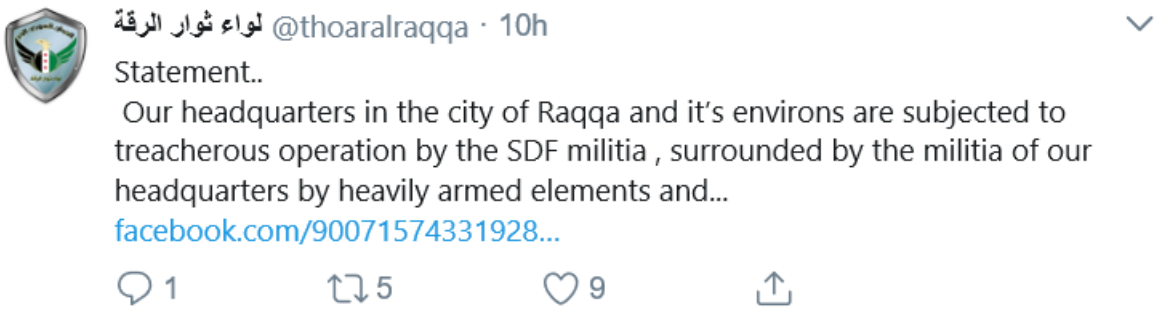
6　シリア民主軍の英語名 Syria Democratic Forces の略。彼ら自身はアラビア語名 Quwwāt Sūriyā al-Dīmuqrāṭīya の略 QSD をよく用いる。またクルド語では Hêzên(戦士たち、すなわち軍の意) Sûriya Demokratîk を略して HSD と呼ばれる。

マンチェスター・ガーディアン]。トルコが直接介入したイドリブ県、アレッポ県北部以外で、反体制派勢力はこのまま各個殲滅されシリア内戦の表舞台から消え去っていく。そうなればロシア主導のシリア内戦和解の枠組みは意味をなさなくなる。後はトルコの勢力をいかにシリアの国土から駆逐するか、ということがシリア内戦の主要なテーマになる。

◆ラッカ大掃除

SDF はラッカ治安部隊とのテロリスト掃討の共同作戦について発表した[24 日、ハワルニュース]。IS の残党によるテロ攻撃の情報があったこと、またトルコやアサド政権が PYD の統治をかく乱しようと工作員を送り込んでいるため、それらの掃討を作戦実施の理由にあげた。

反体制派勢力「ラッカ革命旅団」は、SDF によって司令部他施設が攻撃されたと発表した。



出展：ラッカ革命旅団公式ツイッター

ラッカ革命旅団は、IS 到来以前にラッカを実効支配していた反体制派勢力である。IS はラッカを掌握した際、現地の反体制派勢力の協力を受けたとされる。同勢力は、SDF が強大になったことでその傘下に入ったが、シリア反体制派勢力にありがちな風見鶏気質が災いしトルコとの通謀を疑われたと考えられる。反体制派メディアは、北シリア連邦当局がラッカで避難民の資産を売り払っていると非難した[24 日、北シリア監視団]。ラッカは情報戦の舞台にもなっている。

・有志連合の動向

反体制派メディアは、イタリア軍部隊が SDF 支援のためデリゾールに配備されたと報じた[12 日、オリエントニュース]。軍事メディアの取材に対しイタリア国防相は、イタリア軍部隊はシリア領内に駐留していないと発言した[13 日、防衛情報]。

11 日、アメリカは 250 もの軍用車を SDF に供与したと報じられた[11 日、バスニュース]。マンビジュ侵攻の脅迫を市、かたや共同警備もちかけるという硬軟合わせたトルコによるクルド支援の切り崩しにあくまで屈しない構えだ。「生来の決意作戦」司令部は下旬、数回[7]にわたりマンビジュ郊外のアメリカ軍単独警備活動を実施、その写真を公開した[防衛視覚情報サービス]。

トルコ軍と傘下勢力の軍事行動を監視するアメリカ軍部隊　出展：防衛視覚情報サービス

トルコは盛んに共同警備で合意が成立したと主張していたが、アメリカは改めてその意志はないと数回の単独警備で示した。アメリカはトルコ軍を対テロ戦争のパートナーとは見なしていないことが露呈した。マンビジュにおける「進駐」「共同警備」はエルドアンの選挙のためのリップサービスであり、曖昧な約束を交わし後で覆すトランプ流「取引」にまんまと引っかかった構図だ。

◆イード・アルフィトル

ラマダンを狙ったテロはこれまで何度も警告されてきた。ラマダン明けの祝祭日イード・アルフィトルは、テロ無く迎えることができた。ラッカ市民は、IS から解放されてから最初のラマダンを祝った[15 日、ユーフラテスニュース]。ロジャバ警察当局は、イード・アルフィトルの賑わいについて投稿した[15 日、ロジャバ警察当局 Facebook]。

トルコの侵略行為

◆トルコがアルバーブに大学設立

20 日、エルドアンは、トルコ南部シャンウルファでの遊説中、「解放」されたアルバーブに大学を設立すると発言した[20 日、「自由」紙]。シリア難民の帰還を促すためと趣旨を説明し、選挙権をもつシリア難

7　同作戦室は 24 日、26 日、28 日の写真を公開している。

民に必死に媚売りをした。アルバーブは、数度の攻撃に失敗しレオポルド2を含む多数の重火器を失い、2017 年 2 月にやっとIS から奪取したいわくつき町である。本来であれば、有志連合かアサド政権に管理権を引き渡すのでが筋であるが、今に至るまで不法な占領を続けている。当然トルコの主権が及ぶ範囲ではないので、勝手な教育機関設立は許されないはずである。エルドアンは侵略した北シリアを自国領土と見なしていることが露呈した。

◆トルコの占領に対する抵抗運動

27 日、アフリン中心部で、トルコ占領軍の司令部を狙った自動車爆弾攻撃が発生した[27 日、ロイター]。クルド系メディアによれば、通りすがりの市民が爆発の犠牲になったもののトルコ軍傘下の傭兵を数人殺害することに成功した[27 日、ハワルニュース]。また同メディアは、爆発が発生した通りでトルコ軍傘下の反体制派勢力「シャーム戦線」と「ムウタシム旅団」が、市民から略奪した戦利品を巡り小競り合いを起こしていたという目撃情報を伝えている。

◆通貨から見るシリアとトルコの将来

トルコリラ暴落の陰でシリアポンドは為替レートを維持していたことがわかった[3 日、オリエントニュース]。シリアポンドの価値は内戦開始以来下落する度に、反体制派が近い将来におけるアサド政権の崩壊を予見し、そして外れるというのが恒例の出来事であった。トルコは占領地でトルコリラを流通させる通貨侵略を行っている。トルコリラは経済法則によってシリアから駆逐されることになるかもしれない。

◆トルコ軍高官の国境訪問

29 日、トルコ軍参謀総長フルシ・アカルは、シリアとの国境の町キリスを訪れ現地のトルコ軍部隊を視察した[29 日、アナトリア通信]。マンビジュのモデルが成功すれば、シリア東部でも同様の便乗行為ができると考えている。エルドアン含めトルコの上層部は、本当の意味での現場視察すなわちトルコ軍占領下のシリア領内へ入ることは躊躇している。実行支配しているとはいえ政府首班や軍高官の外国領への訪問は国際問題になる。それ以上に恐れているのは、どこに潜んでいるかわからないクルド人ゲリラによる暗殺ではないのだろうか。他ならぬトルコの政府、軍高官が自国による占領統治、治安維持を不安定で信用ならないと見ているのだ。

北クルディスタン（トルコ領南東部）

Bakurê Kurdistanê

HDP
HALKLARIN DEMOKRATİK PARTİSİ

トルコ総選挙

獄中のデミルタシュ以外雑魚の中から苦渋の選択となる候補者の顔ぶれと所属党派　出典：NTV

◆クルド人への媚態

エルドアンは、クルド系政党 HDP に硬軟合わせた選挙運動妨害をする一方、クルド人票の獲得にも力を入れた。エルドアンは、トルコ領クルディスタンの中心都市アメド（ディヤルバクル）を大観光地にすると発言した[3 日、ルダウ]。エルドアンはまた、自分程クルド人に貢献した人物はいないと言い切った。

首相ビナリ・ユルドゥルムはハッキャリで演説を行ったが聴衆がほとんど集まらない光景が SNS に投稿されシェアされた。最大野党共和人民党（CHP）広報のバルシュ・ヤルカダシュもこの動画ビデオをシェアした。

ハッキャリは前回の選挙でも HDP が勝利した地域であり、また国境地帯では PKK の活動も盛んである。それだけに、政権与党公正発展党（AKP）としても HDP の票田切り崩しを狙ったわけだが、AKP の無人気ぶりを露呈する裏目にでた。

◆HDP の抵抗

17 日、HDP 元共同代表デミルタシュは、テレビ局 TRT を通じて演説をした[17 日、「自由」紙]。逮捕されて以来実に 20 ヵ月ぶり以来テレビに姿を現すことになった。AKP 政権を「弾圧政権」と批判し終始エルドアンを挑発し続けた。「私がこのような場所にいるのは AKP が私に恐れをなしているからだ」「我々はこの国を断崖の絶壁から連れ戻すのだ」と訴えた。

◆実力による選挙妨害

いくつかの事前調査が示したところによれば、エルドアンと AKP の圧倒的勝利は難しいとのことであった。そのためエルドアンは、クルド人票の切り崩しに全力を尽くす戦略をとった。

アナトリア最東端のハッキャリで一か月間政治活動が禁止された[2 日、ユーフラテスニュース]。首相ユルドゥルム含む AKP の集団が選挙の遊説にシリア国境に近いスルチュに訪れたところ、地元住民との議論が口論になり遂には武器を用いた衝突に発展し 3 人が死亡した[14 日、「自由」紙]。現地を訪れていた首相ユルドゥルムは、「徹底的な捜査」を約束した[15 日、アナトリア通信]。その結果 HDP 関係者、支持者 19 人が逮捕されることになった[16 日、「自由」紙]。始めから衝突を仕組んでいたのではないかと疑われる程見事な幕引きとなった。

ウルファでは AKP 支持者がエルドアンの訪問に合わせて HDP の宣伝バナーをトルコ国旗で覆うという暴挙に出た[22 日、24 時]。その様子を収めた動画は SNS に広くシェアされて拡散された。

選挙直前の 22 日アンカラで、何者かが CHP と HDP の偽ビラを配布したと報じられた[「自由」紙]。

各野党の主張を歪曲した偽ビラ　出展:「自由」紙

CHP のものを装ったビラには「我々が政権を取ればヒジャブ禁止令を出す」と、また HDP のものを装ったビラには「トルコ南東部にクルディスタン国家を建国しよう」と書かれていた。

◆投票日の選挙違反行為の数々

日本では、一週間前の 17 日に在外投票がトルコ大使館で実施された。今回は初めから警察、機動隊が警備にあたったため、AKP は 2015 年時のように争乱を起こすことはなかった。

在外投票日のトルコ大使館前　当協会員撮影

その一方でより巧妙な選挙違反が確認された。投票現場にいた当協会関係者が確認したところによると、AKP 関係者は関西他地方から投票のため上京したトルコ人有権者に新幹線チケットや金銭を支給していた。

一方本国では、いわゆる独裁国家も真っ青な選挙違反の数々が報告された。投票が開始されるとエルドアンは早速投票を行い、選挙を「トルコの偉大な民主的革命の始まりだ」と述べた[24 日、「共和国」紙]。。AKP と HDP 関係者の衝突が発生したスルチュでは、AKP の候補者が護衛と共に投票所を訪れ、投票者を脅迫し投票箱に大量の投票用紙を入れた。HDP ツイッターはその様子を収めた動画が SNS でシェアし、トルコメディアもシェア[8]した。スルチュではこの他検問で車の中から投票箱が見つかった事件も報じられた[24 日、ドアン]。またウルファでも同様の投票妨害事件が発生し、HDP は選挙管理委員会にこのような行動の阻止を訴えた[24 日、ユーフラテスニュース]。ムシュの投票所でも AKP の賛成票の大量投票が確認された[24 日、ハワルニュース]。アメド知事は、投票所で 2 つの集団が騒乱を起

8　Tr724

こしたため、憲兵隊が発砲し沈静化させたと発言した[24 日、「スター」紙]。一方でこの一件について、憲兵隊が有権者を威嚇するために空に発砲したとの噂が流れため、そのこともあわせて否定した。

AKP は、トルコが不法占領するアフリンで武装勢力メンバーに投票用紙を与え、隣のハタイ県に越境させエルドアンと AKP への投票を行わせたのではないかという**疑惑**も拡散された[24 日、日報]。

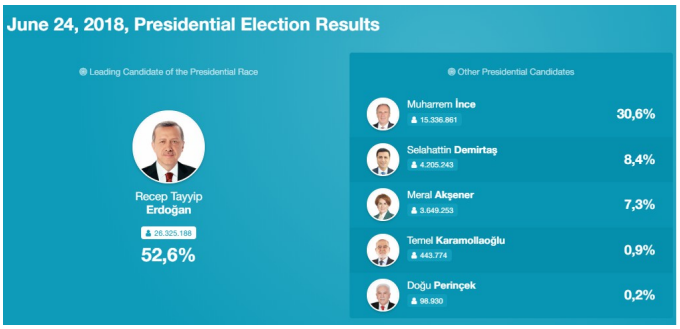
SNS 証拠として拡散された動画では、あるバスでアラブ人とトルコ官憲がやり取りをしていた。ハタイ知事がシリア反体制派による投票の噂を否定する声明を出す事態になった[24 日、アナトリア通信]。

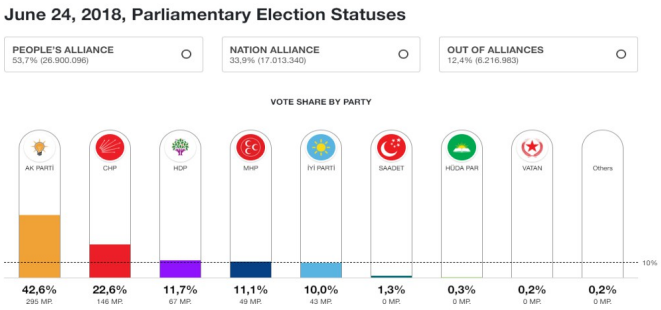
HDP のみならず、いわゆる「国民連合」も実力による投票妨害を受けた。アンカラ選出 CHP 議員はシャンウルファで有権者が殴打され大量投票がなされたと報告した[24 日、「共和国」紙]。イスタンブールでは AKP 地区代表がいい党副代表と候補者を殴打した。エルズルムでいい党地区代表が銃で頭を撃たれ殺害された[24 日、世界] 。流血の騒動が各地で発生した。

投票日当日の争乱や選挙違反について日本のメディアは報じることがなかった。国営通信社は、トルコ治安機関関係者の約半数が選挙の警備にあたっているという内相の発言を報じた[24 日、アナトリア通信社]。日本メディアのトルコ総選挙に関する報道は概ねこの発表に準拠していると考えられる。

◆選挙結果

選挙前の予想を覆しエルドアンが主導する人民連合が大勝した。





選挙結果　出展:「自由」紙

AKP と協力するトルコ人優生主義を掲げる民族主義行動党（MHP）指導者バフチェリは選挙前「これ以上 AKP が誤りを犯すなら同盟関係は崩壊するかもしれない」と連立解消を示唆していた[23 日、「自由」紙]。エルドアンが一定の結果を出したため、MHP は連立を維持する意向だ。議席においては単独過半数を達成できなかったため、MHP の連立維持が過半数維持に必須である。

クルド系政党 HDP は、10%以上の得票率を獲得したことで、得票率 10%以下の政党は排除するというトルコ議会の非民主的な阻止条項を突破した。エルドアンが過半数以上の得票数を獲得したのに対し、クルド人候補者デミルタシュは 8.4%しか獲得できなかった。エルドアンの得票率は大体、議会選挙における AKP と MHP の得票率を足した数字に近い。一方で HDP に投票するクルド人有権者は、ほぼ確実にデミルタシュに投票することが見込まれているのに、HDP の得票率とデミルタシュのそれには開きがある。

選挙後、大量投票は主にクルディスタンで実施されたと指摘された[24 日、地域]。エルドアンが何より HDP の躍進、特にクルド人候補デミルタシュが多くの票を得ることを恐れていたことがわかる。とはいえ HDP を議会から締め出すと外国に向けて民主主義を否定を公式に宣言することになり、また PKK の蜂起を誘発する恐れがある。HDP が議席を得られるよう得票率を 10%以上になるようにし、一方でデミルタシュの得票率を一桁台になるよう選挙妨害を行った。CHP 候補者インジェといい党候補者アクシェネル二人の得票数を合わせても過半数いくことはないと読み、デミルタシュの得票数を下げることに全力を尽くしたのである。

◆アサドの選挙介入

在トルコシリア反体制派メディアが入手した文書によると、シリアのアサド政権とイランが選挙干渉に乗り出そうとしている[12 日、情況]。興味深いことにその工作対象はクルド人であり、トルコ領南東部クルディスタン住民のうち宗教的な層を AKP ではなく至福党に投票させようとしているのである。もし本当に

選挙工作を行ったとしても、至福党の得票率は僅かで全体の趨勢にはほぼ影響を与えることはなかった。内戦終結を見据えたシリアは、今後反体制派勢力を支援してきたトルコに「報復」を目論んでいるとも考えられる。とはいえシリアがトルコ情勢に介入する理由として一番考えられることは、まず第一に国土の恢復である。シリア領内で最も奪還が難しいのはトルコが直接介入している地域である。トルコがロシアにすり寄っている現状、武力は勿論交渉による撤退も望みにくい。トルコの政情不安に介入しエルドアンを揺さぶるという手段をとることは十分考えられる。

トルコ軍によるクルド人弾圧

◆PKK 掃討作戦で犠牲になるクルド住民

トルコ軍はイラク国境に近いハッキャリ県シェムンディリで住民を虐待したと報じられた[1 日、スプートニククルド]。クルディスタンでは PKK がトルコ軍に対し小規模な襲撃を繰り返している。トルコ軍は PKK を掃討するため、作戦に非協力的とみなしたクルド人民間人に対し非人道的行為を繰り返している。トルコ軍は新型の無人兵器をメディアに公開した[10 日、NTV]。トルコ軍は既に無人装甲車（通称：コブラ）を PKK 掃討作戦に投入している。

◆トルコと IS の関係

EU 統合情勢センターは、2015 年のアンカラで発生した HDP の集会を狙ったテロは、エルドアンが IS に指示したものだと示唆した[11 日、トルコ詳報]。トルコと IS の関係は、2015 年時に自国軍機を撃墜された報復にロシアが暴露したのを除けば、欧米では公然の秘密として公の場で追及することはなかった。EU はトルコに対する不信感を露にしたと言える。

東クルディスタン(イラン領西部)

先月イラン司法から死刑判決を受けたクルド人青年ラミン・ホセイン・パナヒの助命運動が広がっている。

ラミンはイラン・クルディスタン州都サナンダジュで、反政府勢力コマラに参加し国家に対し武装蜂起を企てたとして拘束された[19 日、ユーフラテスニュース]。彼の家族と顧問弁護士は武装闘争への関与を徹底的に否定している。ラミンへの支持を表明しイラン政府へ死刑を撤回するよう意見表明するイラン国外のクルド人による SNS の投降が拡大する。イランではみせしめにするためクルド人の公開処刑を繰り返し行っている。

一方でイラン当局も対するゲリラ戦も続く。国境地帯でクルド人武装勢力と交戦し国境警備隊員 1 名が死亡したと発表した[24 日、ファールスニュース]。国境警備隊はイラクへ物資を輸送して生計を立てる「コルベル」の殺害を続けることから、クルド人反政府勢力に狙われた。

文責:日本クルド友好協会研究員　並木宜史